

西原土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第5次（中越）

1989
宮田村遺跡調査会

西原土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第5次（中越）

1989
宮田村遺跡調査会

序

宮田村遺跡調査会は、村長の要請を受けて、西原土地区画整理事業第1工区内の幹線道路、西原2号線（幅員8m延長56m面積448㎡）の部分発掘を実施しました。

調査の結果は、縄文中期の住居址2基と、土構5基、他に中期及び後期の土器が出土しました。今回の発掘は帯状の部分発掘であり、近辺へのひろがりは見えてきませんので、今後この地区を宅地化する場合は、分布調査の必要があるかも知れず、慎重な対応が求められると思われます。

発掘作業に当たりましては友野会長以下、関係各位のご協力に対し感謝を申し上げます、報告書発刊のことばと致します。

平成元年3月

宮田村教育長

林 金 茂

例 言

1. 本報告書は昭和63年に実施した、西原土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財緊急調査報告書である。
2. 本事業は、宮田村役場の委託により、宮田村遺跡調査会が実施した。
3. 本事業は、契約期間中に報告書をまとめる義務があるので、調査によって検出された遺構及び遺物をより多く図示することに重点をおき、資料の再検討は後日の機会に譲ることにした。
4. 遺構の製図は、友野良一・小田切守正・酒井艶子・林美弥子・有賀芳子
5. 遺構の写真は、友野良一が行なった。
6. 本報告書の編集は、友野良一が行なった。
7. 遺物の整理は、小田切守正・酒井艶子・横田愛子・林美弥子・有賀芳子・平沢きくみ・高山よし子が行なった。
8. 出土遺物は、宮田村教育委員会が保管している。

目 次

序

例言

第 I 章	発掘調査の経緯	1
第 1 節	発掘調査に至るまでの経過	1
第 2 節	調査会の組織	1
第 3 節	発掘調査の経過	2
第 II 章	遺跡の環境	3
第 1 節	位置	3
第 2 節	地形及び地質	5
第 3 節	歴史的環境	6
第 2 節	住居址・土壇	9
	出土遺物一覧表	18
図 版		26

挿 図 目 次

第1図	西原地区遺跡（中越）の位置	3
第2図	西原地区の遺跡の環境	4
第3図	西原地区の地質図	5
第4図	西原地区（第5次）発掘実測図（No-1, F-280~300m）	7
第5図	西原地区（第5次）発掘実測図（No-2, F-300~330m）	8
第6図	西原地区（第5次）第15号住居址実測図	9
第7図	西原地区（第5次）第16号住居址実測図	10
第8図	西原地区（第5次）第15号住居址遺物実測図	11
第9図	西原地区（第5次）第16号住居址遺物実測図	12
第10図	西原地区（第5次）トレンチ出土拓影	13
第11図	西原地区（第5次）土壇実測図-1	14
第12図	西原地区（第5次）土壇実測図-2	15
第13図	西原地区（第5次）土壇実測図-3	16

表

第1表	出土遺物一覧表	18
-----	---------	----

図 版 目 次

図版1	西原地区（第5次）上トレンチ全影 下第15号住居址	27
図版2	西原地区（第5次）第15号住居址出土遺物	28
図版3	西原地区（第5次）第15号住居址出土遺物	29
図版4	西原地区（第5次）第15号住居址出土遺物	30
図版5	西原地区（第5次）第16号住居址出土遺物	31
図版6	西原地区（第5次）グリッド出土遺物	32
図版7	西原地区（第5次）グリッド	33
図版8	西原地区（第5次）第16号住居址	34

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 発掘調査に至るまでの経過

西原地区整備事業区内の遺跡の調査は、長野県教育委員会より事業区内に埋蔵文化財包蔵の個所があるので、事業前に調査するよう連絡があり、これに対する詳細な指示があった。文化財担当の村教育委員会は、宮田村長よりの事業要請を受け、宮田村遺跡調査に調査を依頼した。

昭和63年7月10日宮田村遺跡調査との間で「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約」を締結し、8月3日調査会を開催し発掘計画について協議する。9月19日より調査を開始した。

第 2 節 調査会の組織

宮田村遺跡調査会

調査会長	友野 良一
文化財委員	宮本 芳弥
”	細田 一男
”	太田 利雄
教育長	林 金茂

調査事務局

教育次長	小林 守
係長	古河原正治
係	原 寿

発掘調査団

団長	友野 良一	日本考古学協会員
調査補助員	小田切守正	宮田村
”	伊藤 柳治	”
”	中塚喜代美	”

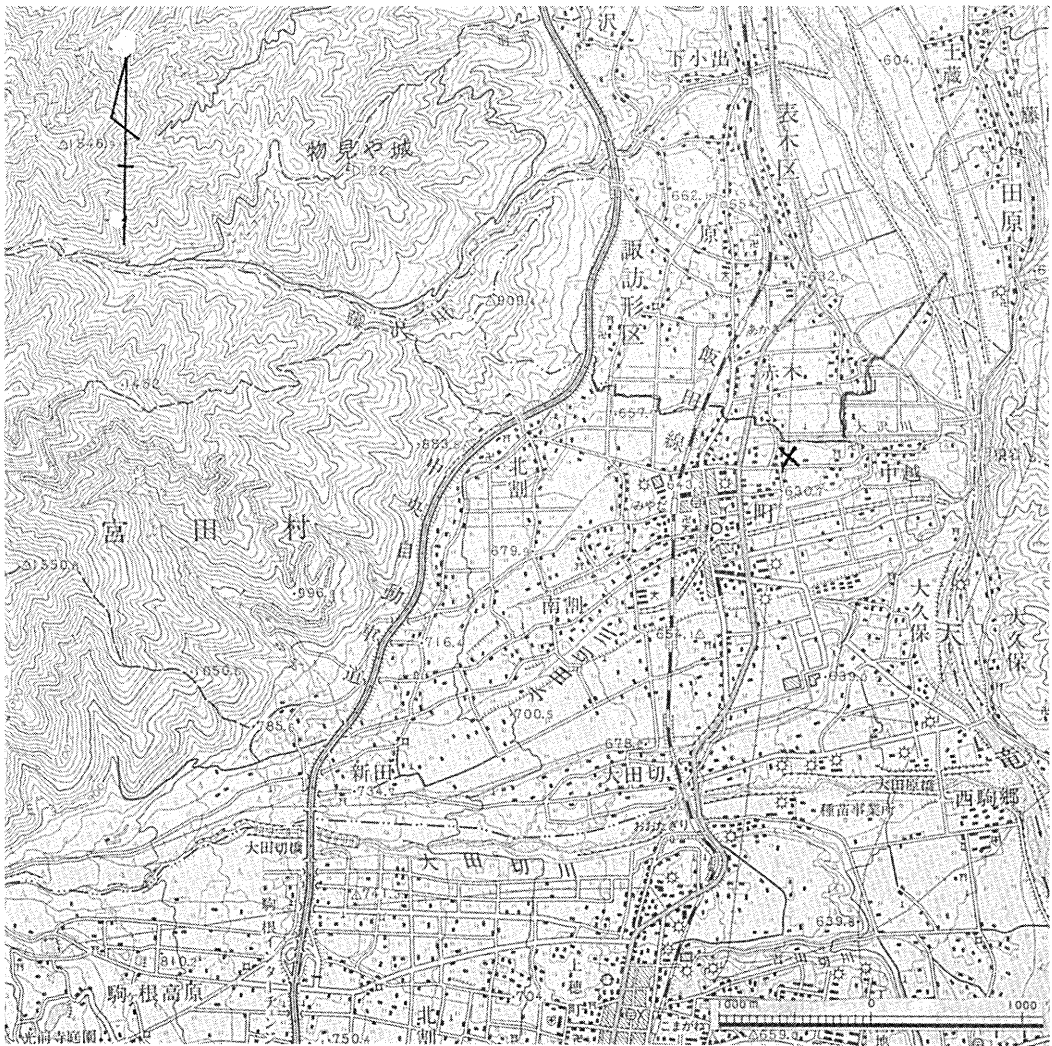
第3節 発掘調査の経過

月 日	日 誌
9・19日	発掘場所の草丈がのびていたので重機で踏倒す様にして除去する作業。
9・20日	本調査の個所は、中越遺跡調査区域のうちF-280～330m間に当る場所である。 この区間に2×8mのグリットを設定する。
9・21日	重機を使用して耕土を除土する作業を開始する。 この調査区画は地形的に凹地であるため、耕土（黒土層）が以外に深く除土作業に手間取る。
9・22日	前日に続いて除土作業を行なう。
9・23日	休日
9・24日	耕土の除土作業が続く。
9・25日	本日よりF-280～290m区画内のジョレンがけを行なう。
9・26日	F-290～300m区画内の調査。
9・27日	F-300～310m区画内の調査を行なう。
9・28日	F-310～320m区画内の調査を行なう。
9・29日	F-320～330m区画に本調査では初めての住居址を確認する。
9・30日	F-330区画内に住居址を発見する。第4次の調査の続きであるので第15・第16号住居址と記号を付す。
10・1日	第15号住居址の調査。
10・3日	第16号住居址の調査にかかる。
10・4日	第16号住居址の調査。
10・5日	本日より各調査区の遺構確認を行なう。
10・6日	前日に引続いて各区画内の遺構調査。
10・7日	本日も各区画内の調査。
10・8日	第15号住居址と第16号住居址清掃、写真撮影。
10・9日	休日
10・10日	休日
10・11日	調査区の写真撮影を行なう。
10・12日	調査区画内に1～12号の大小の土壇を確認する。
10・13日	本日より測量にかかる。
10・14日	測量
10・15日	測量・後片付、第5次の現場作業を終る。

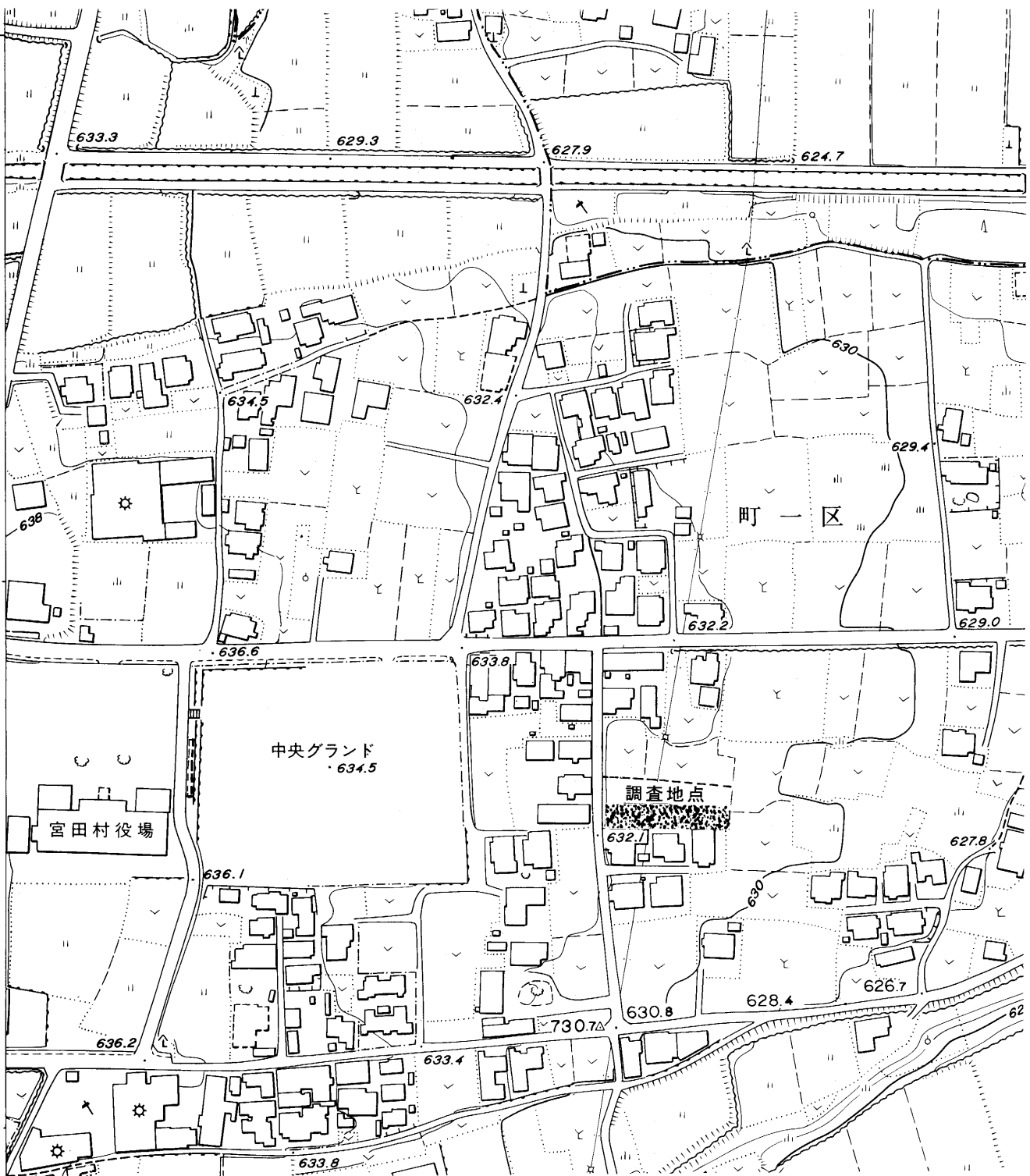
第II章 遺跡の環境

第1節 位置

遺跡の地理的な位置は、長野県上伊那郡宮田村中越（考古学的区分）第2区（縄文中期）を主体とした地籍に所在する。遺跡に至るにはJ R 飯田線宮田駅より東方800m，国道153号線よりは東に30mの地点にある。また，遺跡は木曾山脈に源を発する大田切川の支流小田切川の左岸段丘上であり，標高は632m内名の範囲に広がっている遺跡である。



第1図 遺跡の位置図



第2図 西原地区の遺跡の環境

第2節 地形及び地質

1) 地形 (第2図)

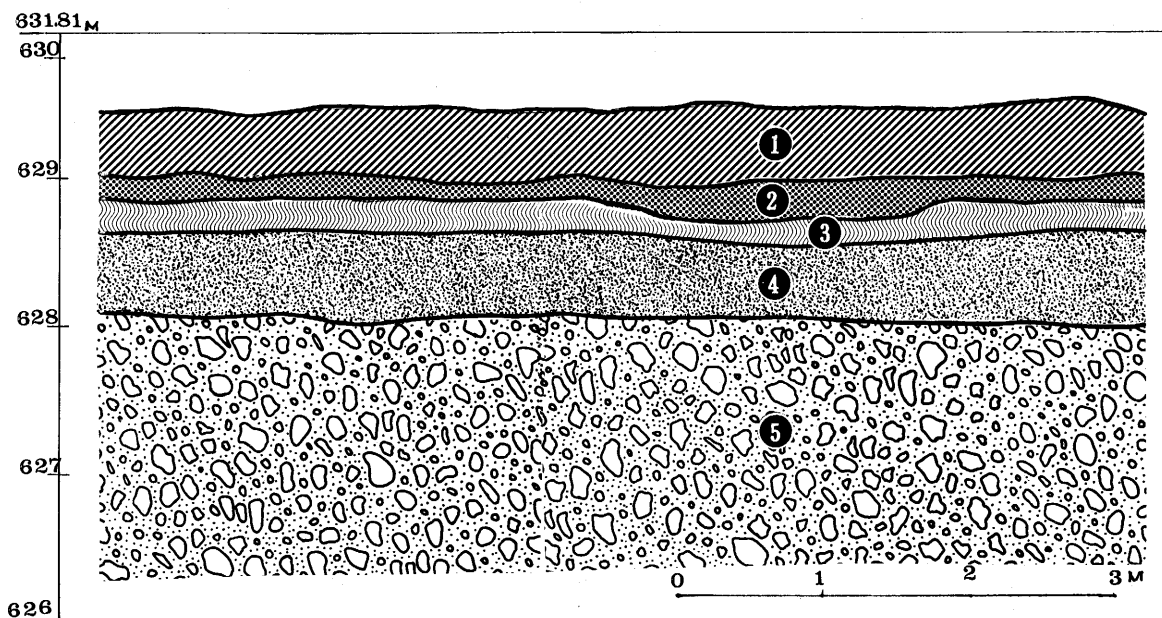
遺跡の位置する所は古くは太田切川の扇状地である。この太田切扇状地は中越面を含め北は伊那市諏訪形から赤木・下牧に及んでいる。また南は駒ヶ根市上穂沢川までに広がる伊那谷の扇状地でも大形の扇状地である。また、この扇状地には南は古田切川・太田切川・小田切川・大沢川などの諸河川がこの太田川扇状地を東西に田切形をとって段丘面を形成している。本遺跡はこのうち小田切川と大沢川に挟まれた帯状に東西に長い台地に所在する。

2) 地質 (第3図)

遺跡の基盤は太田切川の扇状地の砂礫層で、一般に言われている天竜礫層と呼ばれている洪積層である。この礫層基盤の上に古期・中期・新期テフラが堆積している。そのうち中越面は現在のところ新期テフラ層が残っていない現状である。

この中越面は下部に天竜礫層が堆積しその上に太田切砂礫層が堆積している。ちょうど太田切礫層と天竜礫層の堆積した接点にある場所であることが次第に解ってきた。中越遺跡はこうした新期テフラ面に作られた遺跡である。

	凡 例
1.	耕土 (黒土)
2.	黒 土 層
3.	黒 褐 色 層
4.	砂混りテフラ
5.	砂 礫 層



第3図 西原地区 (第5次) の地質図

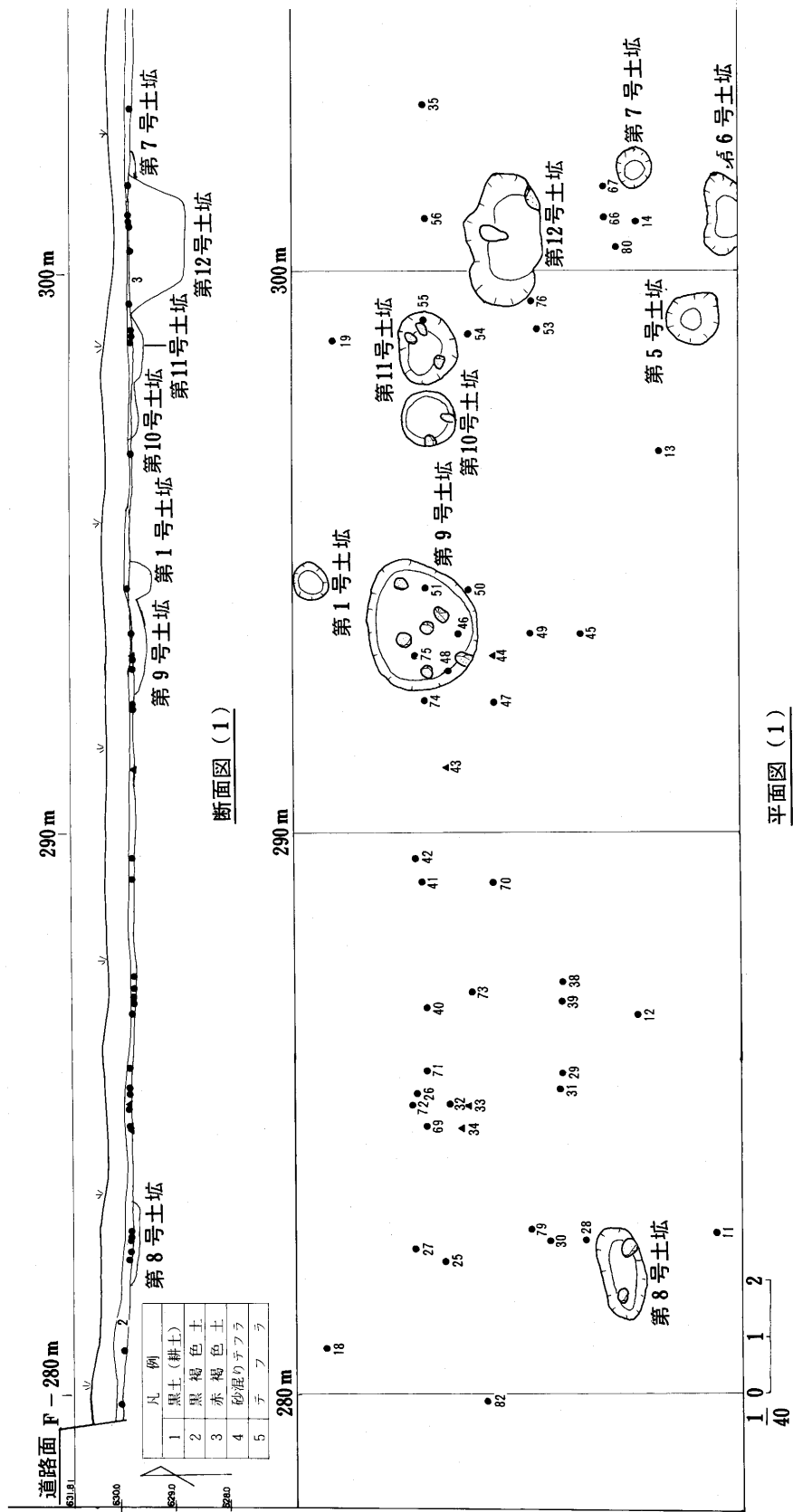
第3節 歴史的環境

今回調査された遺跡の附近は、昭和30年来調査されてきた個所でもある。これらの調査された遺跡の概要を述べてみると、

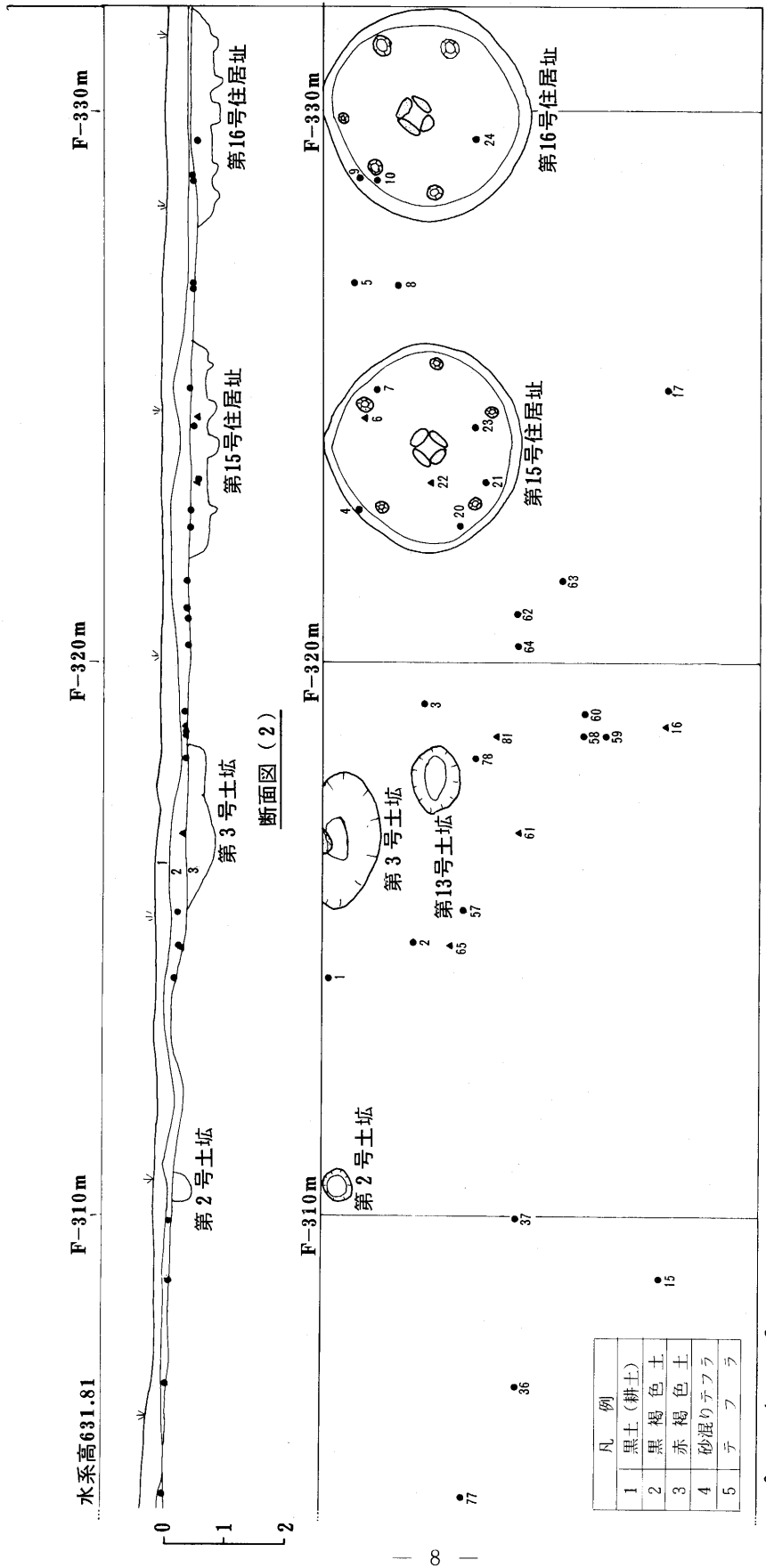
1.中越遺跡の最初の発見は大正年代「先史及び原始時代の上伊那」の刊行のための調査に訪れた鳥居龍蔵博士によって認められた遺跡である。この場所は現在新谷孫六氏宅の西新谷和美氏の畑あたりで、発見された遺物は縄文中期中葉の深鉢形土器と大形石棒などであった。こんなことが原因となって中越部落の西原一帯に分布する遺物が一般の人々の注目されることとなった。昭和30年頃中越北線の工事とか、宮田中学校グラウンド造成時などに係わって露出した切取面に住居址が発見された。これが中越遺跡の発掘の契機となったのである。昭和30年、上伊那考古学会の人々によって中越遺跡第1号住居址の発掘が行われた。この発掘によって発見された波状口縁部の尖底深鉢形土器は、この地域では珍しい土器であったところから、考古学者の注目するところとなり、昭和43・44年国の補助を得て発掘が行われたのである。その結果、中越期の住居址30余軒と数千点余の遺物が発見され大遺跡となった。この成果により当時としては縄文前期初頭の遺跡としては日本でも最大の遺跡と言われるようになったのである。

その後この附近に宅地造成が行われる度に5・6次と調査は重ねられ、その度々に中越遺跡の性格が次第に明かになっていった。昭和51年、中越南線の南側小田切川左岸段丘上に花井家具店の住宅が建設されるに当り、埋蔵文化財の調査を行ったところ、縄文時代後期の土墓百余基が発見され、注目されることとなった。その後附近からは縄文後期の遺物が多く発見されるようになった。昭和62年道路建設に当り縄文後期の住居址と縄文時代中期の住居址が重複して発見された。こうしたことから小田切川左岸の中越西原地籍には、宮田村役場附近の縄文時代前期を中心とする遺跡とは異った時代の遺跡が分布していることを確認することができた。

昭和53年度国の補助事業として、「中越遺跡範囲確認調査」が行われ、西原一帯に205坑の調査坑を設定し調査が行われた。その成果の一・二の問題点を述べてみると、まず、分布範囲報告書102坑に弥生時代前期のカメの中に縄文時代晩期の水式に比定されるカメ形土器が落込んだ形で発見された。このことより、中越遺跡は縄文前期・中期・後期の複合遺跡であるほかに、縄文晩期～弥生前期の時期の重要な遺跡の発見となったのである。二に、今回1～6次の道路建設にともなう調査で、ここ西原地区の遺跡の分布範囲を再確認することができ、今後西原の開発が行われるに当り埋蔵文化財の保護に役立つことと思うものである。



第 4 図 西原地区 (第 5 次) 実測図



平面图 (2)

第5图 西原地区(第5次)発掘実測図

第2節 住居址

1. 住居址と遺物

【第15号住居址】(第6図, 図版1)

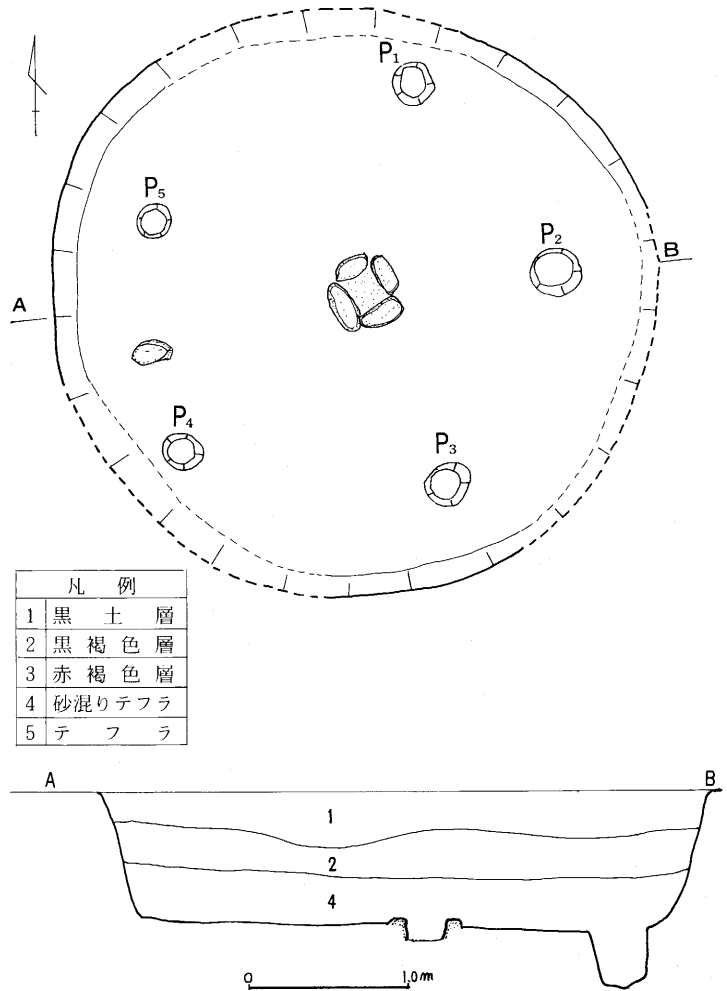
遺構 本址は西原土地区画整理事業区図の⑦8M区の東端6Mに接した位置に検出された遺構である。この付近は太田切扇状地中の中越面が形成された以後、微地形開折によって作られた小河川の凹地に黒色土が流れ込み堆積した後に作られた遺構である。

遺構のプランは東西3.7m, 南北3.6mの円形の規模をもった住居址である。柱穴P1～P5と考えられる。炉址は石囲の小形の炉址である。

遺物(図6, 図版2・3・4)

1～3は隆帯に爪形文を施した藤内Ⅱ式に比定されるもの。4～7は井戸尻Ⅱ式の深鉢形土器、8はやや薄手の爪形文を施した井戸尻期の土器

片、9～12は沈線文の曾利Ⅱ式に類似している土器である。13は硬砂岩製の折製石斧、14は硬砂岩の横刃形石器、15は石錘、本址の時期は曾利後半と考えられる。



第6図 西原地区(第5次) 第15号住居址実測図

【第16号住居址】(第7図, 図版5)

本住居址は15号住居址に隣接して発見された住居址で、住居址の規模は東西3.7m, 南北4.1mのだ円形プランをしている遺構である。住居址の壁は所々不明確な個所があった。壁面には特別な施設は認められなかった。床面は所々に叩面は認められたが、大方は軟弱な床面であった。炉址は小形石組炉址である。柱穴はP1～P4の4柱の構造をした住居址である。

遺物(図9, 図版5・8) 1・2は竹管文と爪形文の藤内Ⅱ式に比定される遺物、3～5井戸尻Ⅱ式と考えられる土器。6は竹管文と刺突文土器、7は深鉢形土器の底部木葉痕土器、8は深鉢形土器、9～13は曾利前葉の土器。14は無文の縄文中期後葉の土器である。

2. 土坑

【第1号土坑】(第11・4図)

西原地区土地区画整理区内F-280~300m内に発見された土坑である。土坑の規模は長径64cm, 短径56cm, 深さ90cm, 土坑内には黒褐色土が落ちていた土坑である。土坑内からは遺物は発見されなかった。

【第2号土坑】(第11・5図)

F-310~320mの区画内に発見された土坑である。規模は長径63cm, 短径53cm, 深さ地表面から75cmを計る。遺物は検出しなかった。

【第3号土坑】(第11・5・13図)

この土坑の発見はF-310~320m区画内に発見された土坑である。その

規模は長径1.37m, 短径1.10m, 深さ地表面より1.10m, だえん形の遺構で、遺構内からは砂混りテフラに花崗岩の自然石が落ちていた。

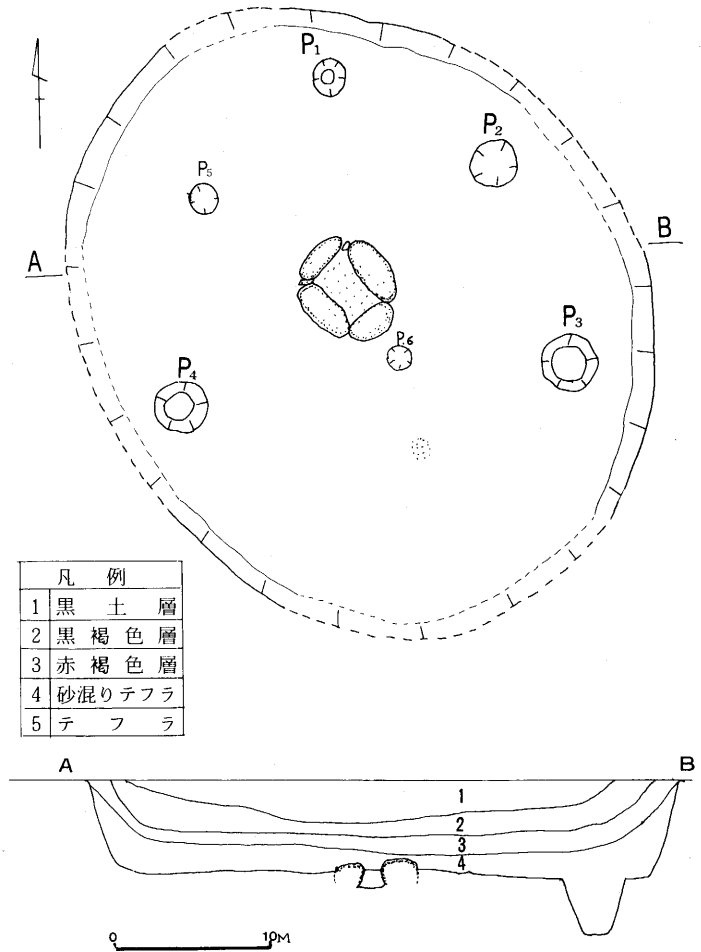
【第5号土坑】(第11・4図)

本址は、F-290~300mの区画内に発見された遺構である。規模は長径73cm, 短径65cm, 深さ地表面より50cmを計る。

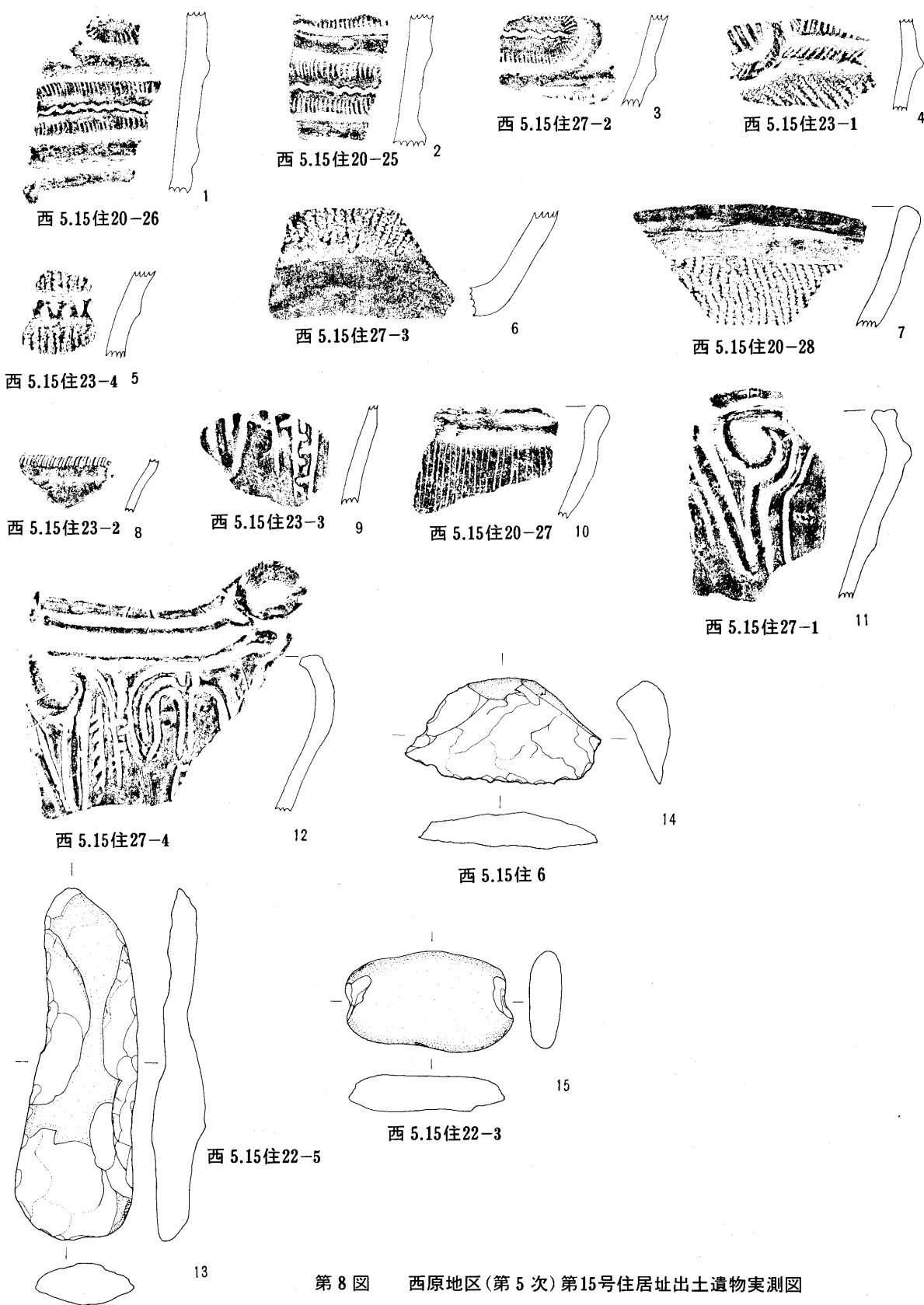
遺物は土坑内からは発見できなかった。

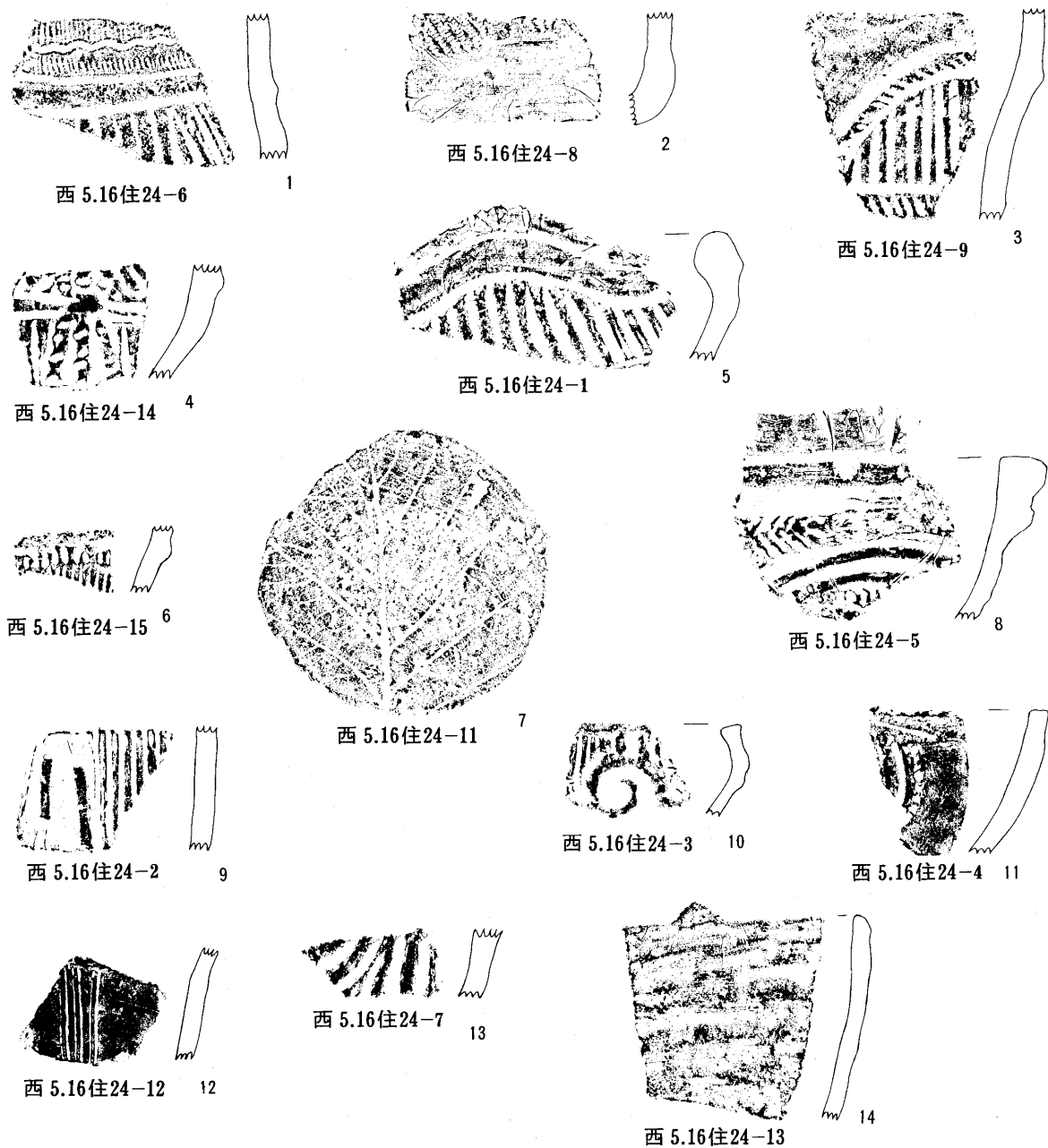
【第6号土坑】(第11図)

本址はF-300~310mの区画内に発見された遺構で、遺構の規模は長径96cm, 短径60cm,

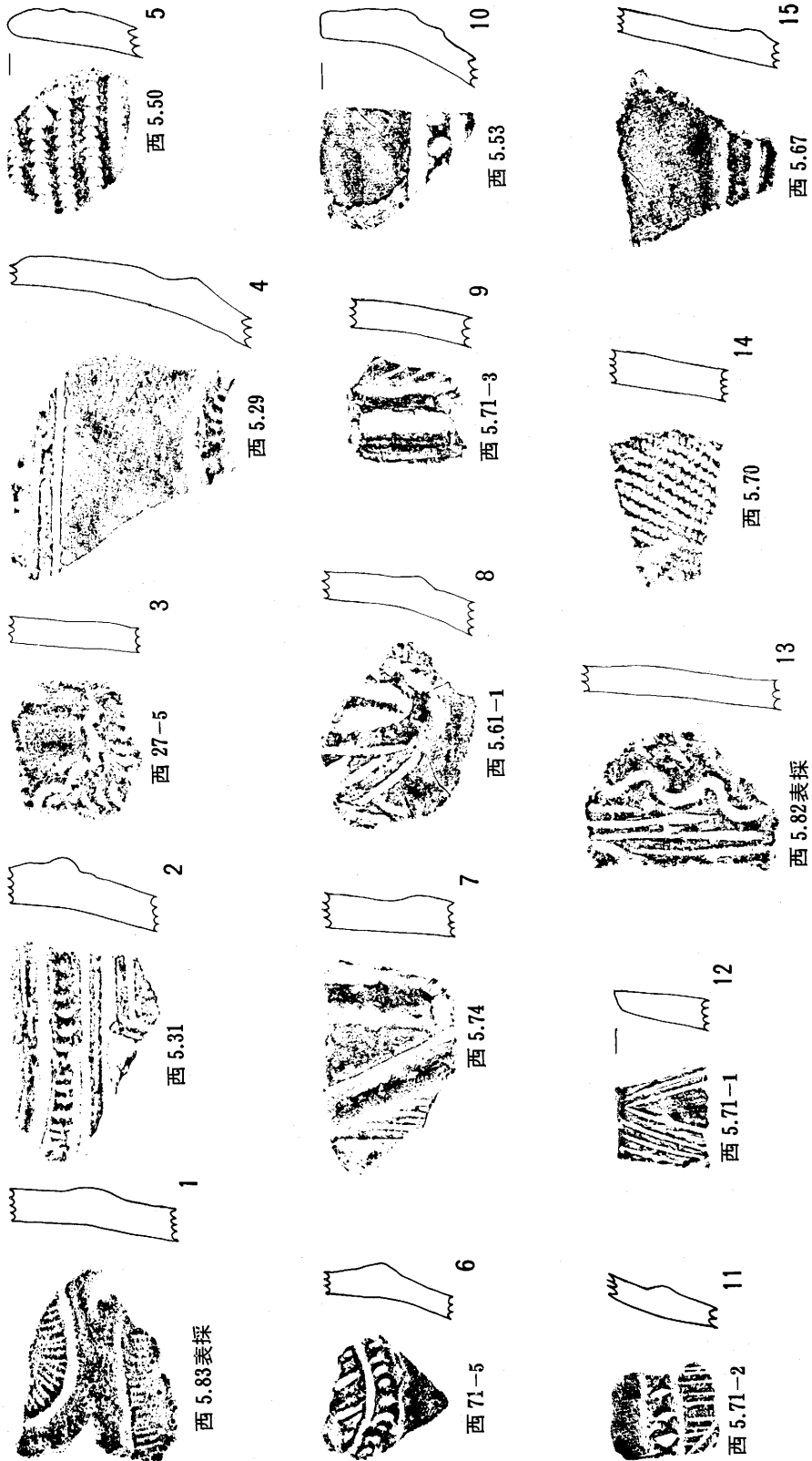


第7図 第16号住居址実測図

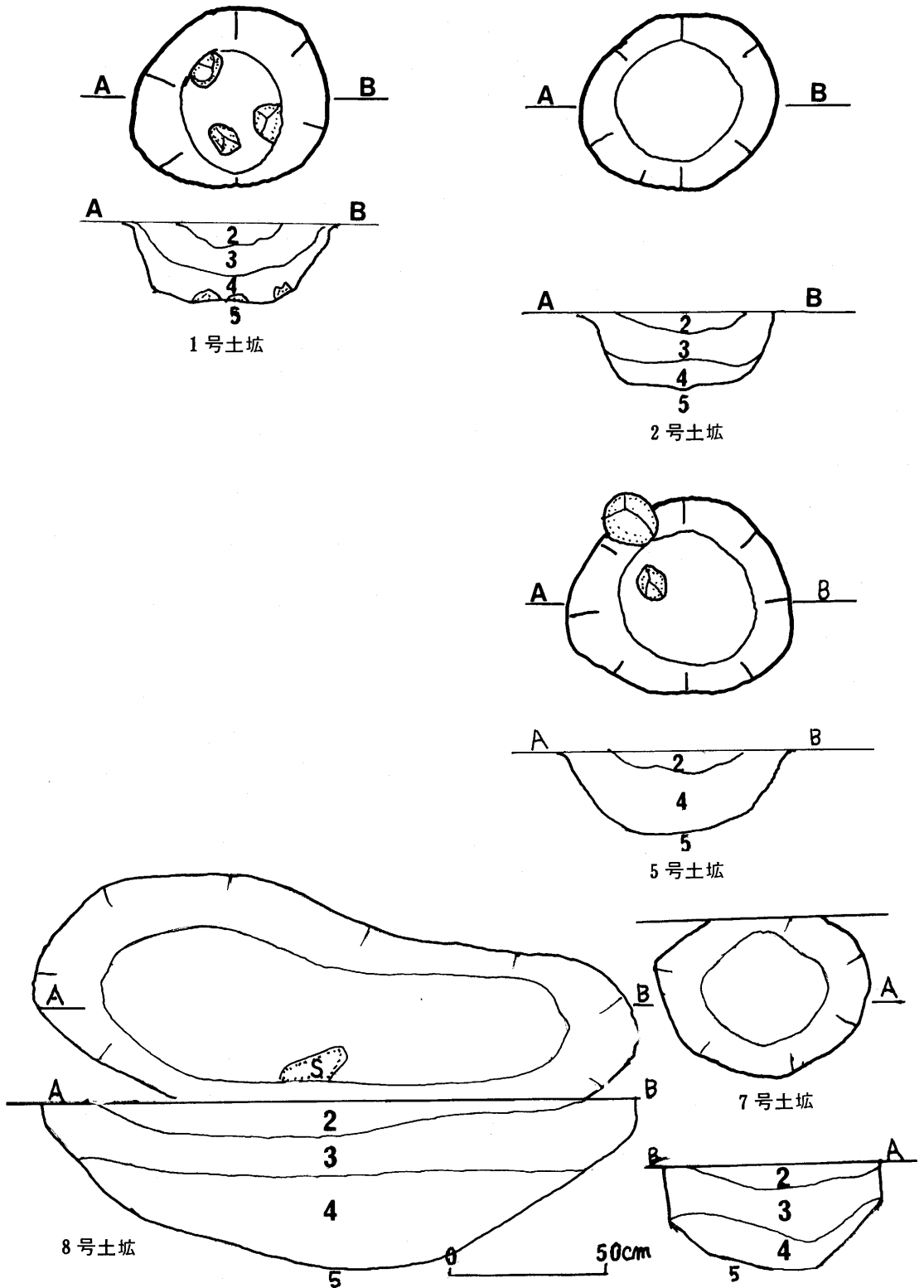




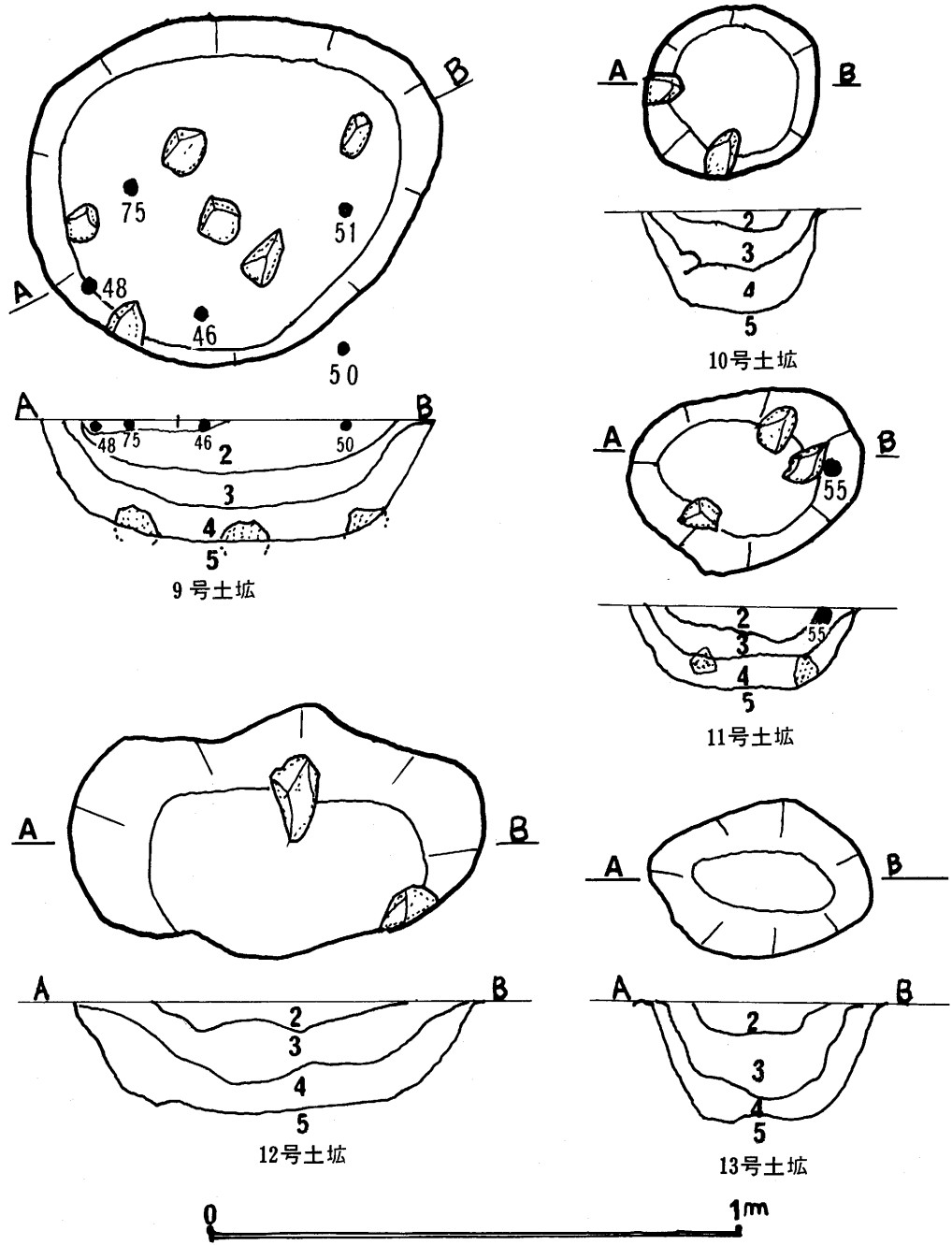
第 9 图 西原地区(第 5 次)第 16 号住居址出土遗物实测图



第10図 第5次トレンチ出土拓影



第11图 西原地区(第5次)土坑实测图-1



第12图 西原地区(第5次)土 实测图-2

【第7号土坑】（第11・4図）

F-300~310m区画内に発見された土坑である。規模は長径70cm，短径55cm，深さ地表面より30cmを計る小規模の土坑である。遺物は出土しなかった。

【第8号土坑】（第11・14図）

本址はF-280~290m区画内に発見された遺構である。規模は長径89cm，短径38cm，深さ地表面から68cmのだえん形の土坑である。遺物は上面から縄文中期後葉の土器片が出土した。

【第9号土坑】（第12図）

F-290~300m区画内に発見。規模は長径1.2m，短径1.0m，深さ地表面より60cm。遺物はNo.46・48・51・75，縄文中期後葉。

【第10号土坑】（第4・12図）

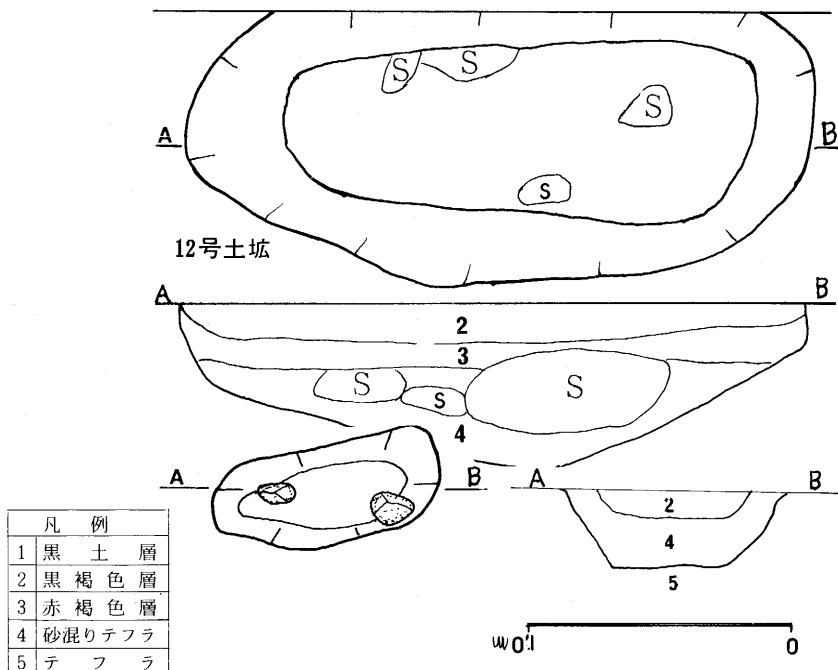
本土はF-290~300m区画内より発見された土坑である。規模は長径50cm，短径50cm，深さ地表面下60cmに検出された遺構である。遺物は発見されなかった。

【第11号土坑】（第4・12図）

本址はF-290~300m区画内より発見された遺構である。規模は長径67cm，短径50cm，深さ地表面下70cm，遺物はNo.55，縄文中期後葉に比定される土器。

【第12号土坑】（第4・12図）

本址はF-300~310mの区画内に発見された土坑である。規模は長径1.17m，短径70cm，深さ地表面より1.3m，だ円形プランの遺構であった。遺物は検出されなかった。



第13図 西原地区（第5次）土坑実測図

ま と め

西原土地区画整理事業も2次3次と進み第5次の調査が終了したので、ここに調査報告書の刊行の段階となった。今回の発掘の成果については、前項において詳細に報告したので、ここでは調査中に知り得た問題の二・三について述べてまとめとしたい。

1. 調査した遺跡の所在する面は太田切扇状地の形成が行われた最後の面と言われている地形である。この面は現在にはほぼ平坦に見えるが、実は今わかっているだけでも三本の小流路の存在が確認されている。その二番南の流路が今回調査された個所に当たっている。この流路に当る凹地に黒色土層が周辺の高い個所から流れ堆積したものであることがわかってきた。この黒色土層の堆積中に発見される多くの遺物は、土器捨場ばかりではなく、周辺の遺構から流出した遺物が堆積していることもわかってきた。

2. 今回の調査個所は、中越地区遺跡の調査メッシュ内のF—280～330mまで幅は8m内を全面調査することができた。

3. 西原地区の土層の標準面は、黒色土層が30～50cmが普通で、その下部は黒褐色面が10～20cm内外、その下層は赤褐色土層であるが、この層は20～30cm、その下部はテフラ層20～30cm、最下層は礫層となっている。今回調査された個所は黒色土層の深い所は70～80cmに達している。しかし、この狭い地域においても第16号住居あたりの一部には、黒色土層下にテフラ混りの礫層が認められたので、我々が考えている以上に中越面は凹凸のある複雑な地形をしているようである。

4. 今回の調査で確認された住居址は、プランがやや不明な住居址2軒と、土壇と考えられる遺構13基を調査した。これらの遺構は縄文時代中期後葉曾利期に比定されるものである。

5. 今回の調査区域では縄文前期中越期の遺構や遺物は出土しなかった。

6. 第5次の発掘に当り土地所有者及び建設課岸本・伊沢両職員、発掘に参加された方々伊藤柳治・木下道子・酒井艶子・中塚喜代美・林美弥子・有賀芳子・小田切守正・平沢きくみ・木下平八朗・寺平宏・小松浅勝・小松兼寿・高山よし子・橋沢貞子・横田愛子各氏に対し心から御礼申し上げる次第である。

出土遺物一覽表

No.	挿 図	図 版	種 別												備 考			
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須惠	土師		灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
1		3			○													
2		3			○													
3-1					○													
3-2					○													
3-3					○													
3-4		4			○													
3-5					○													
3-6					○													
3-7					○													
3-8					○													
3-9					○													
3-10					○													
3-11					○													
3-12		3			○													
3-13		3			○													
3-14					○													
3-15					○													
3-16		3			○													
3-17					○													
3-18					○													
3-19					○													
3-20					○													
3-21					○													
3-22					○													
3-23		3			○													
3-24					○													
3-25					○													
3-26					○													
3-27					○													
3-28					○													
3-29					○													
3-30					○													
3-31	10	3			○													
3-32					○													
3-33					○													
3-34		3			○													
3-35					○													
3-36					○													
3-37					○													
3-38					○													
3-39					○													
3-40		3			○													
4-1		6			○													
4-2					○													
4-3		6			○													
4-4		6			○													
4-5		6			○													
4-6		6			○													

No.	挿 図	図 版	種 別												備 考			
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須惠	土師		灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
4-7					○													
4-8					○													
4-9		6			○													
4-10					○													
4-11					○													
4-12					○													
4-13					○													
4-14					○													
4-15					○													
4-16		6			○													
4-17					○													
4-18					○													
4-19					○													
4-20					○													
4-21					○													
4-22					○													
4-23					○													
4-24					○													
4-25					○													
4-26					○													
4-27					○													
4-28					○													
4-29					○													
4-30					○													
4-31					○													
4-32					○													
4-33					○													
4-34					○													
4-35					○													
4-36					○													
4-37					○													
4-38		6			○													
4-39		6			○													
4-40		6			○													
4-41		6			○													
4-42					○													
4-43					○													
4-44					○													
4-45					○													
4-46					○													
4-47					○													
4-48					○													
4-49					○													
4-50					○													
4-51					○													
4-52		6			○													
4-53		6			○													
4-54		6			○													

No	挿 図	図 版	種 別												備 考			
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須恵	土師		灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
4-55					○													
4-56					○													
4-57					○													
4-58					○													
4-59					○													
4-60					○													
4-61					○													
4-62					○													
4-63					○													
4-64					○													
4-65					○													
4-66					○													
4-67					○													
4-68					○													
4-69					○													
4-70					○													
4-71					○													
4-72					○													
4-73					○													
4-74					○													
4-75					○													
4-76					○													
4-77					○													
4-78					○													
4-79					○													
4-80					○													
4-81					○													
4-82					○													
4-83					○													
4-84					○													
4-85					○													
4-86					○													
4-87		6			○													
4-88					○													
4-89					○													
5-1		5			○													
5-2		5			○													
5-3		5			○													
5-4		5			○													
5-5					○													
6		4															△	横刃形石器
7					○													
8-1					○													
8-2					○													
8-3					○													
8-4					○													
8-5					○													
8-6					○													

No.	挿 図	図 版	種 別											備 考				
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須恵		土師	灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
9-1					○													
9-2					○													
9-3					○													
9-4		5			○													
9-5					○													
9-6					○													
9-7					○													
9-8					○													
9-9					○													
9-10					○													
10-1					○													
10-2		5			○													
10-3					○													
10-4		5			○													
11-1					○													
11-2					○													
12					○													
13-1					○													
13-2					○													
14-1					○													
14-2		5		○														
14-3		5		○														
14-4					○													
15-1					○													
15-2					○													
16		2			○													
17-1		2			○													
17-2					○													
18-1		2			○													
18-2		2			○													
18-3		2			○													
19-1					○													
19-2					○													
19-3					○													
19-4					○													
19-5					○													
19-6		2			○													
19-7					○													
20-1					○													
20-2					○													
20-3					○													
20-4					○													
20-5					○													
20-6					○													
20-7				○														平出三A
20-8					○													
20-9					○													
20-10					○													

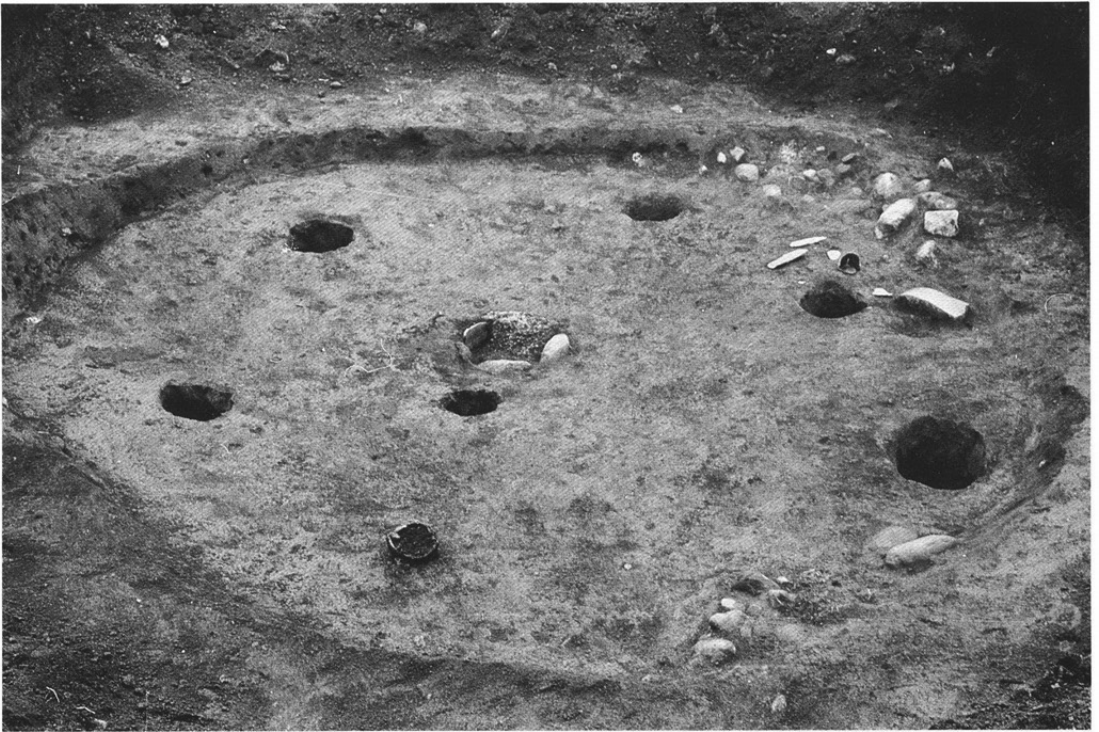
No.	挿 図	図 版	種 別												備 考			
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須恵	土師		灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
20-11					○													
20-12					○													
20-13					○													
20-14					○													
20-15					○													
20-16					○													
20-17					○													
20-18					○													
20-19					○													
20-20		2			○													
20-21		2			○													
20-22					○													
20-23				○														
20-24					○													
20-25	8		○															
20-26	8		○															
20-27	8				○													
20-28	8				○													
21-1					○													
21-2		2		○														
21-3		2		○														
21-4					○													
21-5					○													
21-6		2			○													
21-7		2			○													
21-8					○													
21-9		2			○													
22-1																		△ 削片 硬砂岩
22-2		4																△
22-3		4																△ 石錘
22-4		4																△ 削片 使用痕
22-5		4																△ 打製石斧
23-1	8			○														
23-2	8			○														
23-3	8			○														
23-4	8			○														
23-5					○													
23-6					○													
23-7		3			○													
23-8		3			○													
23-9					○													
23-10					○													
23-11		3			○													
23-12		3			○													
23-13					○													
23-14		3			○													
23-15					○													
23-16		3			○													

No.	挿 図	図 版	種 別												備 考			
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須惠	土師		灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
23-17					○													
23-18					○													
23-19					○													
23-20					○													
23-21			○															
23-22		3			○													
23-23					○													
23-24					○													
23-25					○													
24-1	9			○														第16号住居址
24-2	9	5		○														
24-3	9			○														
24-4	9			○														
24-5	9			○														
24-6	9			○														
24-7	9				○													
24-8	9			○														
24-9	9			○														
24-10					○													
24-11	8			○														底部木葉痕
24-12	9			○														
24-13	9				○													
24-14	9			○														
24-15	9			○														
24-16		5			○													
24-17					○													
24-18		5			○													
24-19		5			○													
24-20		5			○													
24-21		5			○													
24-22					○													
24-23		5			○													
24-24					○													
24-25		5			○													
24-26		5			○													
24-27		5			○													
24-28					○													
25-1		7			○													
25-2		7			○													
26					○													
27-1	8				○													
27-2	8		○															
27-3	8			○														
27-4	8				○													
27-5	10	7		○														
28					○													
29	10	7			○													
30					○													

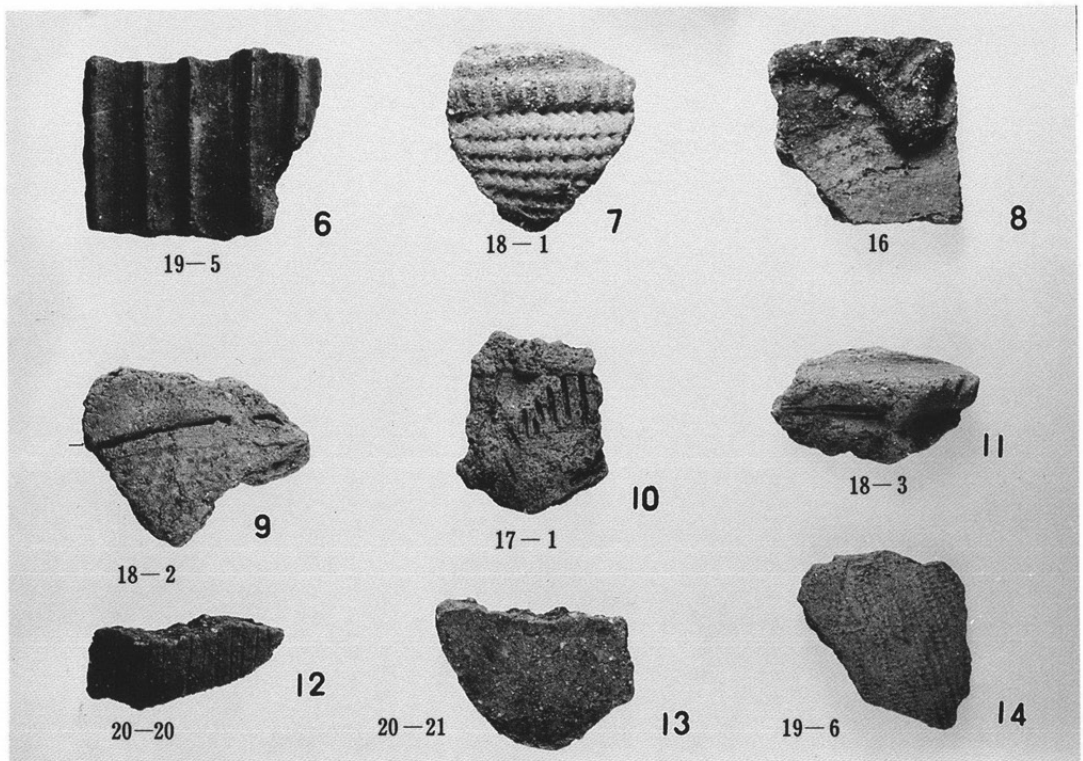
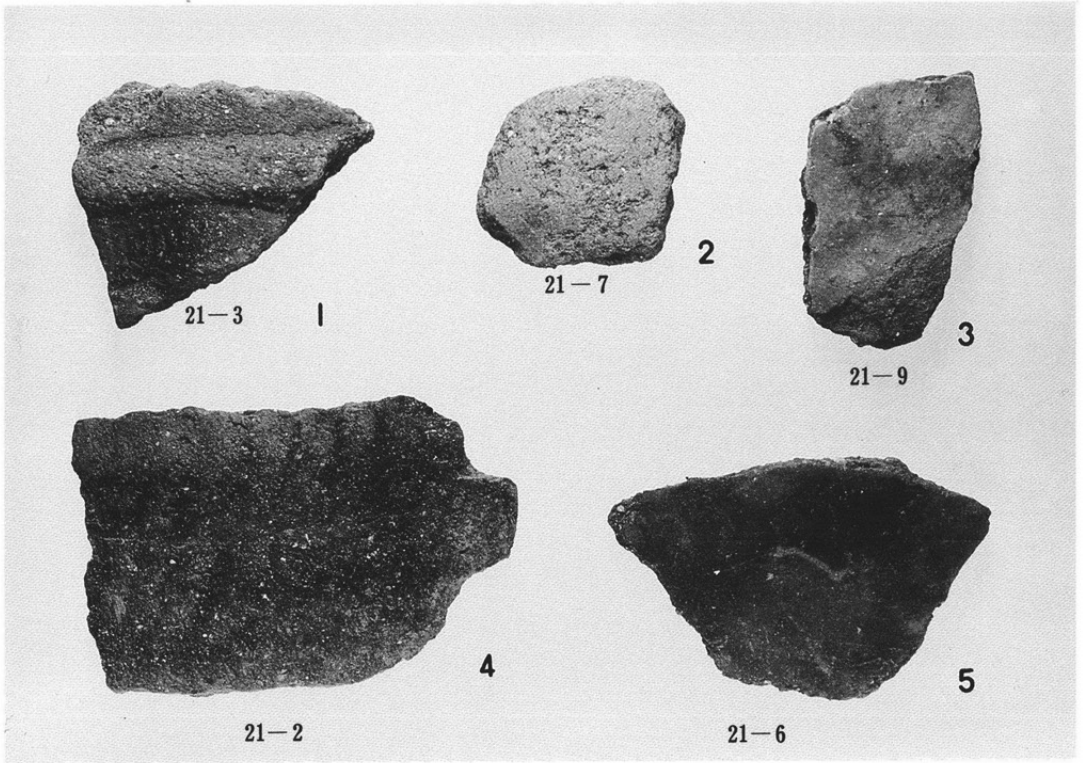
No.	挿 図	図 版	種 別												備 考			
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須恵	土師		灰釉	石器	
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後						
31	10	7		○														
32					○													
33																	△	削片
34																	△	打製石斧
35					○													
36- 1					○													
36- 2					○													
37- 1					○													
37- 2					○													
38					○													
39					○													
40		7			○													
41		6			○													
42					○													
43		6			○													
44																	△	石錘
45					○													
46- 1					○													
46- 2					○													
47- 1		7			○													
47- 2					○													
48																		
49					○													
50	10			○														
51					○													
52																		
53	10				○													
54					○													
55- 1					○													
55- 2				○														
56					○													
57- 1					○													
57- 2					○													
58																	○	
59																	○	
60- 1		7			○													
60- 2		7			○													
61- 1	10				○													
62- 1					○													
62- 2					○													
62- 3					○													
63- 1		7		○														
63- 2				○														
64- 1					○													
64- 2					○													
64- 3					○													
65																	△	削片
66					○													

No.	挿 図	図 版	種 別												備 考				
			縄文中期			縄文後期		縄文晩期		弥生時代			須恵	土師		灰釉	石器		
			前	中	後	前	後	前	後	前	中	後							
67	10				○														
68																		△	削片
69- 1					○														
69- 2					○														
70	10	7			○														
71- 1	10				○														
71- 2	10	7			○														
71- 3	10				○														
71- 4					○														
71- 5	10				○														
72					○														
73					○														
74	10	7			○														
75					○														
76- 1					○														
76- 2					○														
76- 3					○														
76- 4					○														
76- 5															○				底部
76- 6					○														
77					○														
78					○														
79					○														
80- 1					○														
80- 2					○														
81					○														
82- 1		7																△	削片打製石斧
82- 2																		△	叩石
82		7			○														

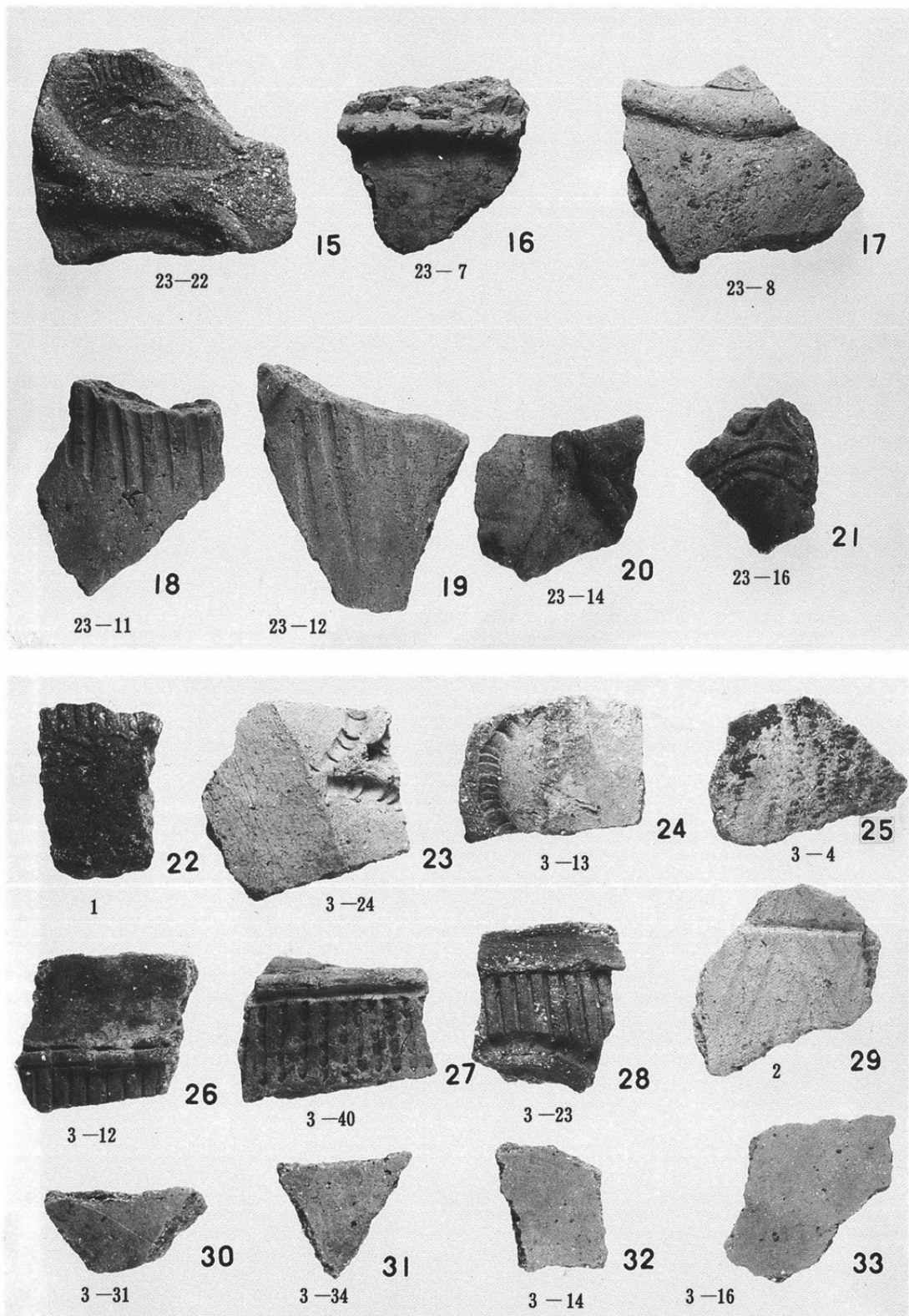
版 图



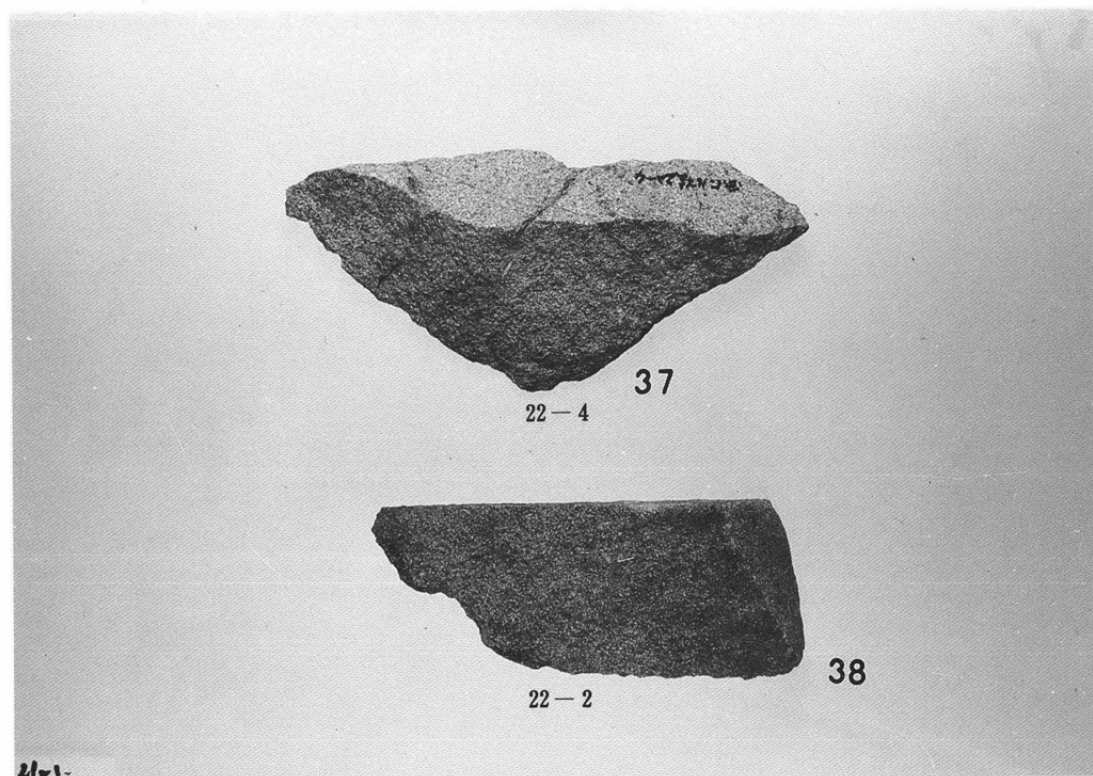
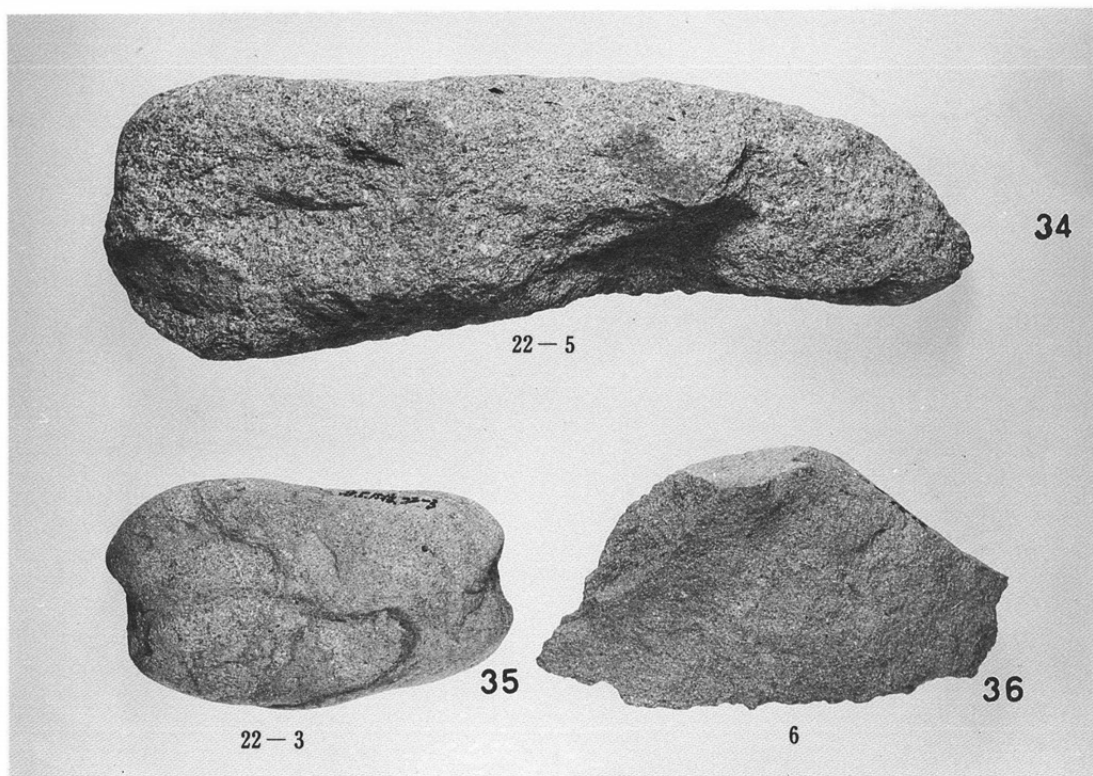
図版1 西原地区（第5次）上トレンチ全景 下第15号住居址



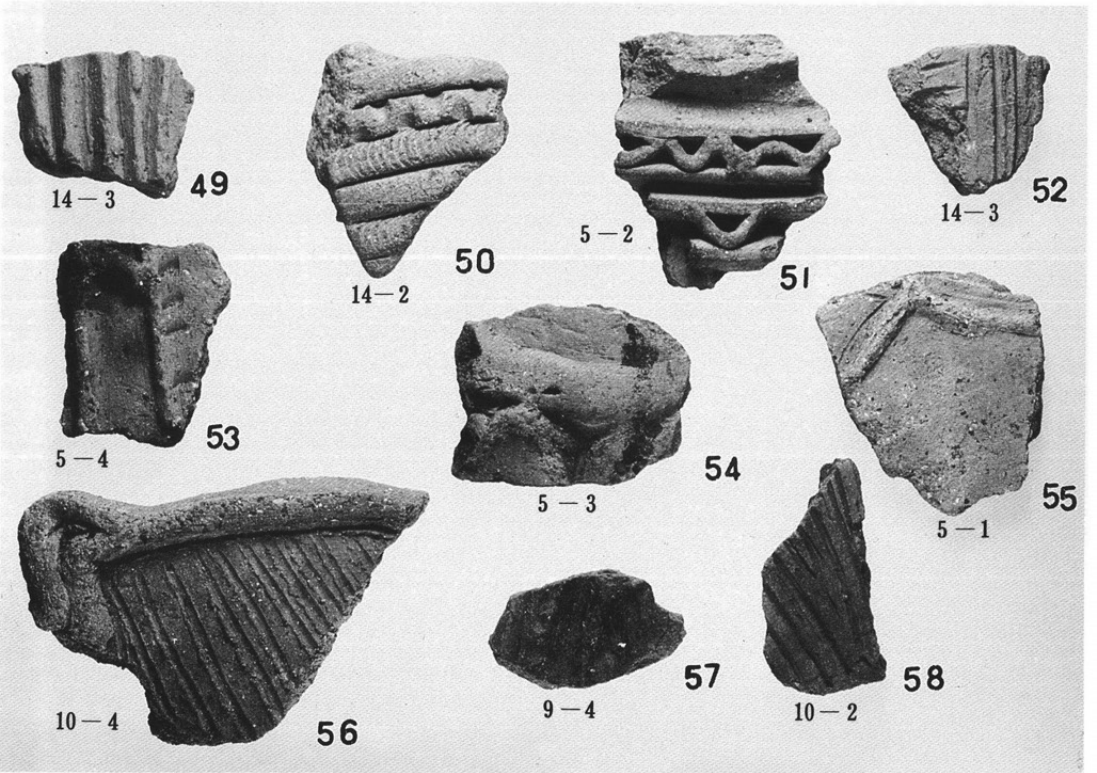
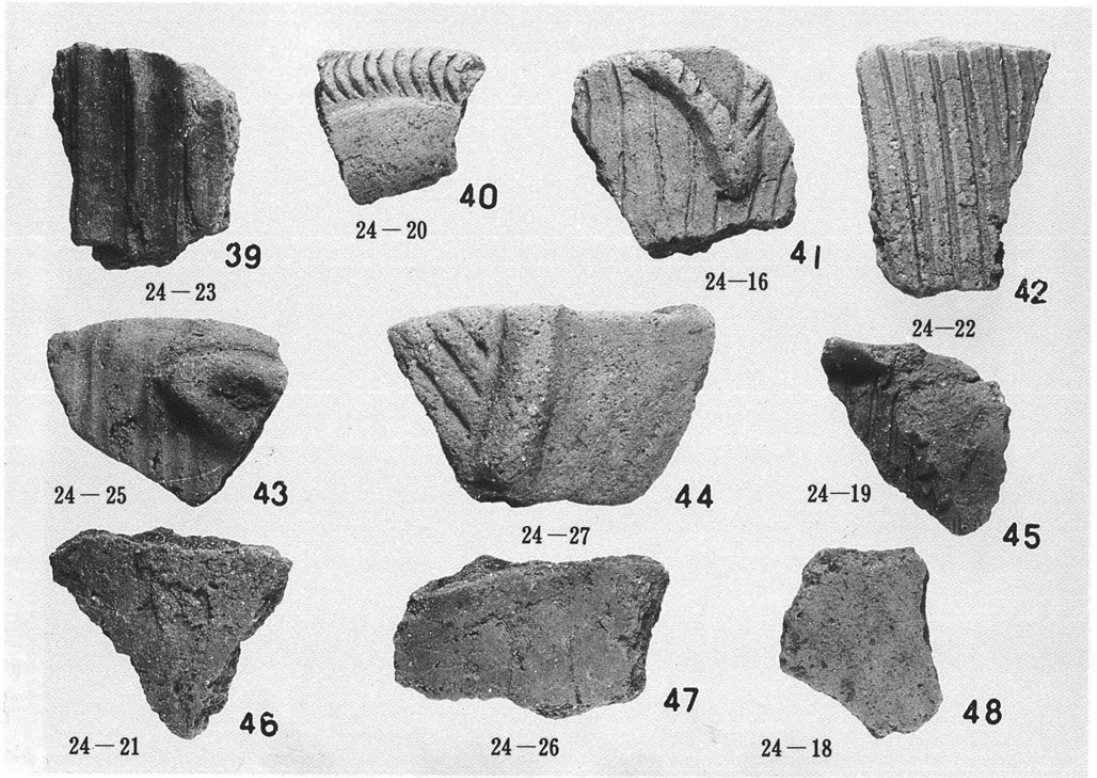
图版 2 西原地区（第 5 次）第 15 号住居址出土遺物



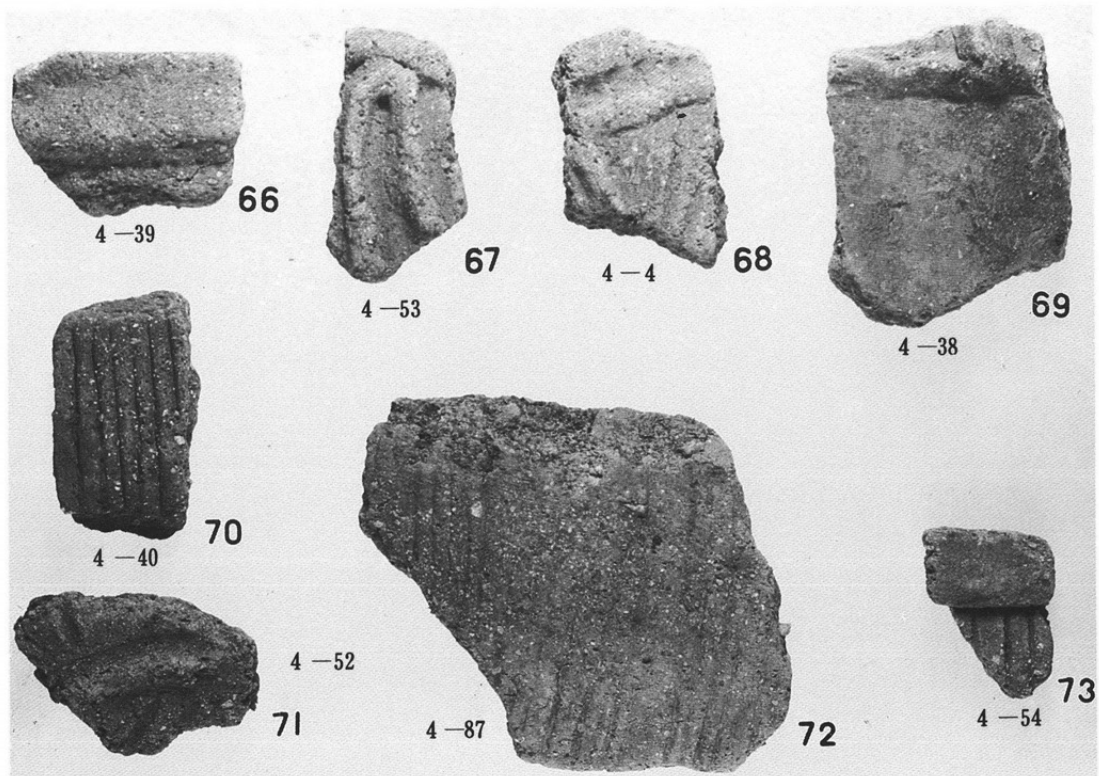
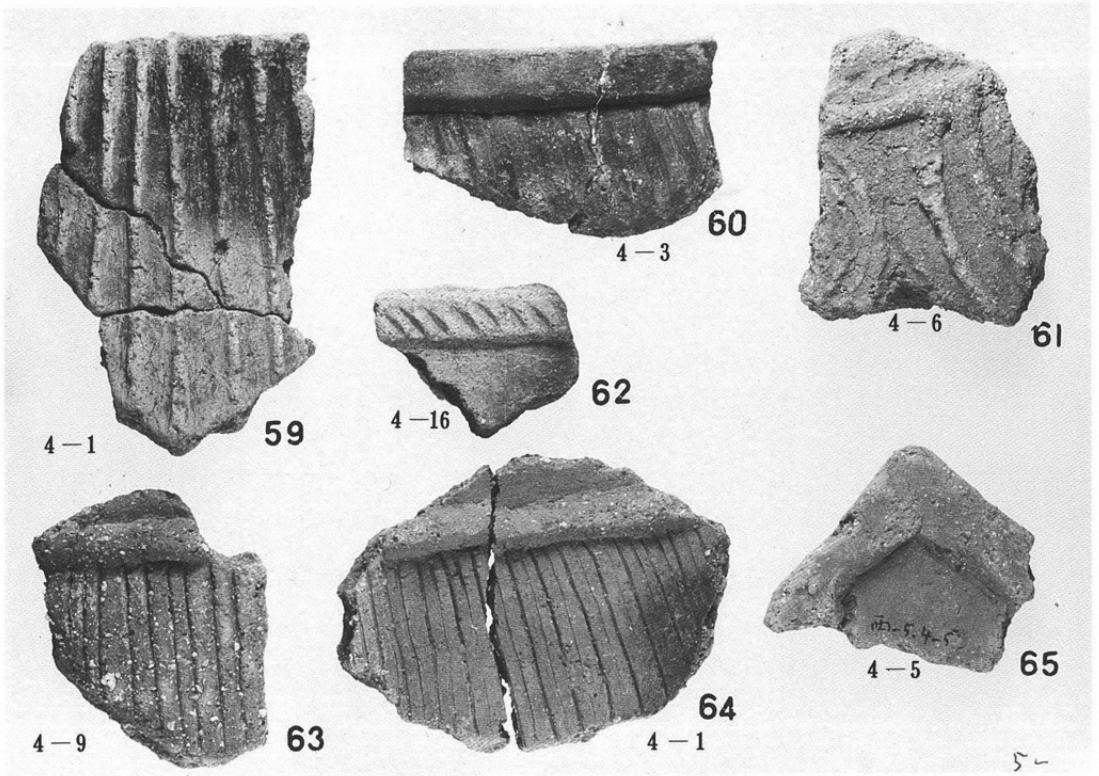
图版3 西原地区（第5次）第15号住居址出土土器



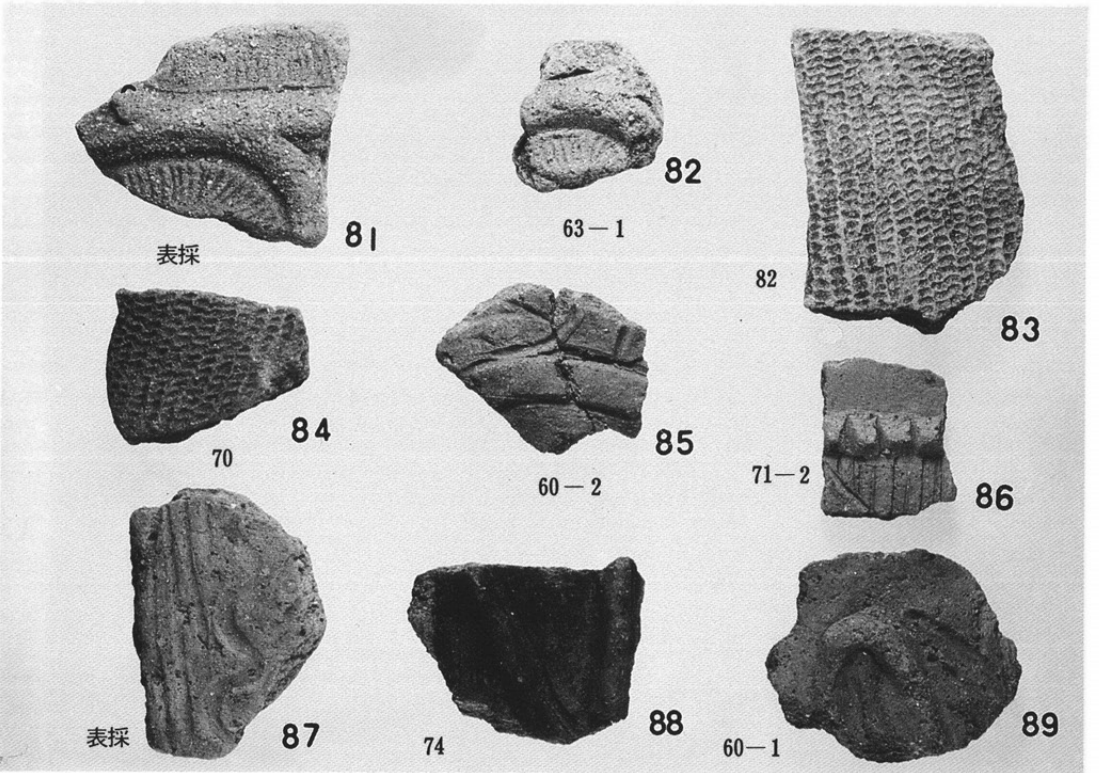
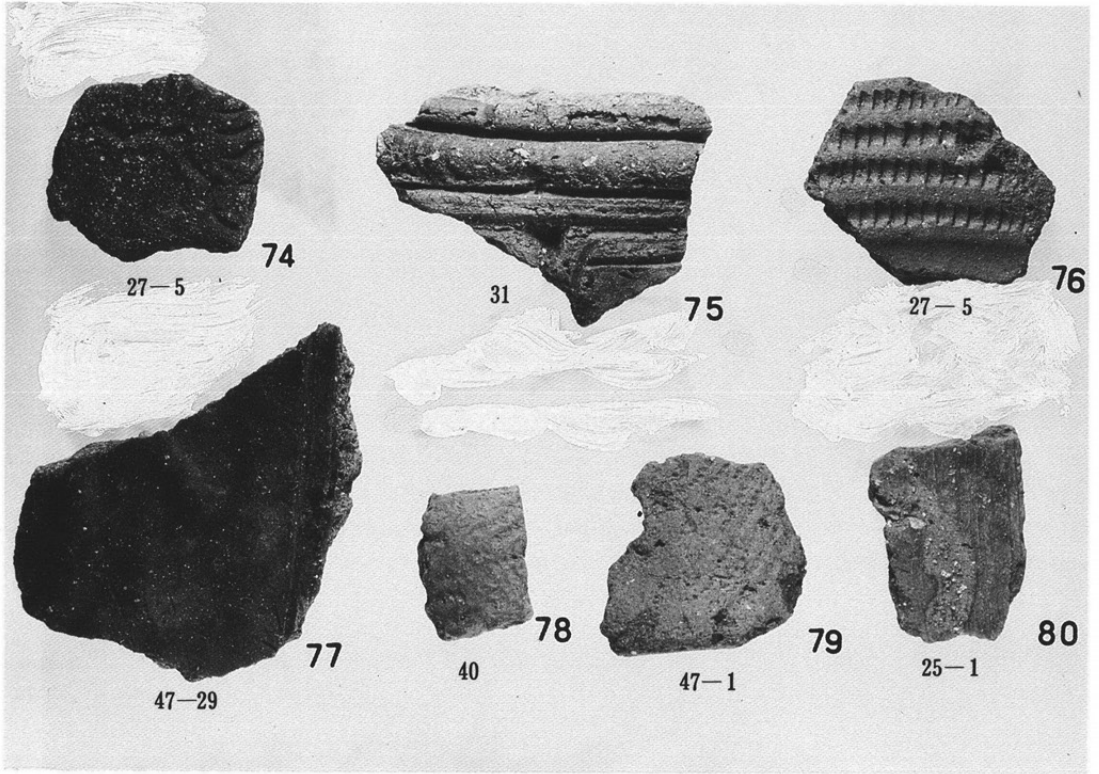
图版 4 西原地区（第 5 次）第 15 号住居址出土遗物



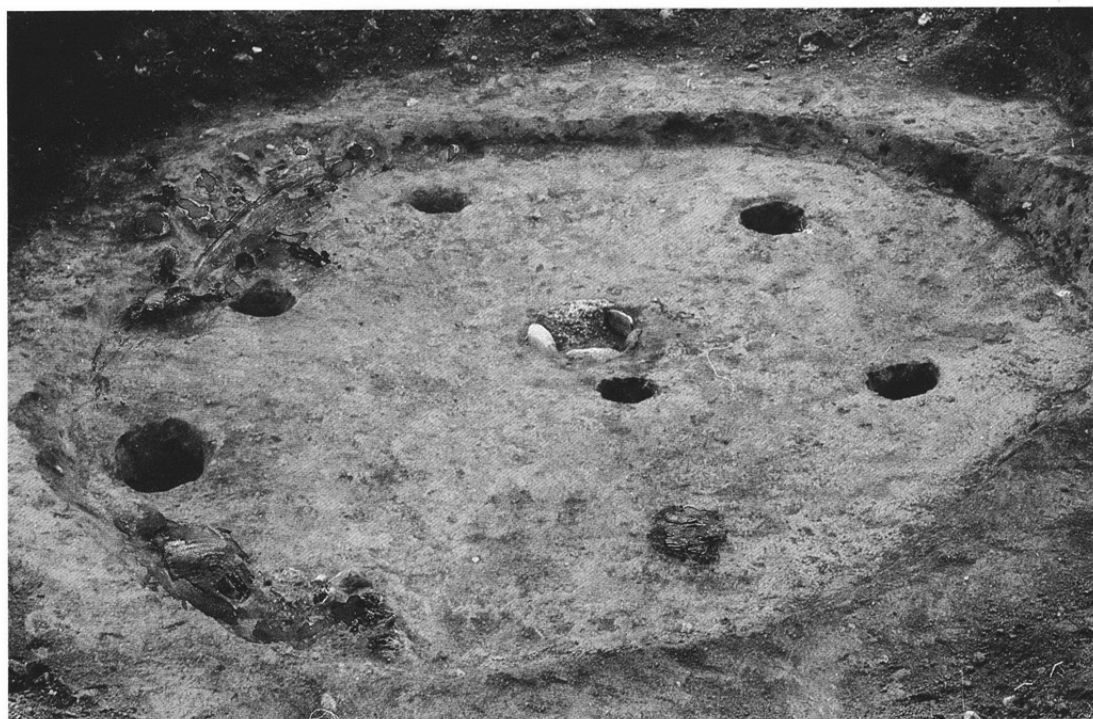
图版 5 西原地区 (第 5 次) 第 16 号住居址出土遺物



図版 6 西原地区（第 5 次）グリット出土遺物



図版7 西原地区(第5次)グリット出土土器



图版 8 西原地区（第 5 次）第 16 号住居址

西原土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第5次（中越）

1989年3月15日

発行 宮田村遺跡調査会

印刷所 (株)オノウエ印刷
長野県諏訪市中洲

